

子ども音楽新聞 第14刊

2009年10月～

もりお博士の音楽講座 Vol. 2



特集★どう聞く？このコンサート



(C)Franchella Stofleth

曲目紹介や
フランスオーケストラの魅力など
内容盛りだくさん！！



(C)Franchella Stofleth

特集①子どもたちに贈るスペシャル・コンサート

大野和士/フランス国立リヨン歌劇場管弦楽団

特集②まもなく季節到来！

「ベートーヴェン “第九”」



年末に“第九”が多く

演奏される理由とは！？

博士がナゾにせまります！

最終ページ

博士に質問！博士の回答コーナー —みんなの質問に、博士が丁寧に答えます！—

音楽博士でプロのフルート奏者、北川森央さんにクラシック音楽の魅力をたっぷり語ってもらおう！

もりお博士の音楽講座

Vol. 2

こんにちは！みんな元気かな。
少しずつ涼しくなってきました。
秋＝おいしいものの季節。
実は、9月に中国に行ってきました。
うなんしんしょう
雲南省という南の緑豊かなところで食べたのが
「キノコ鍋」。上品なお出汁のなかで
みたことも無いような大量の珍しいキノコがゆでられ、
本当においしかった。
日本で高級品のマツタケもいっぱい食べましたよ。
日本の秋の幸も楽しみですね。



もりお博士

横浜生まれ。幼少時からクラシック音楽に親しんで育つ。11歳よりフルートを始める。
東京藝術大学音楽学部器楽科卒業。
同大学院修士課程及び博士後期課程修了。
2008年3月、博士号（音楽）取得。

音楽講座は全3回を予定！！

どう聞く？このコンサート 特集①

子どもたちに贈るスペシャル・コンサート

おおのかずし

大野和士（指揮とおはなし）フランス国立リヨン歌劇場管弦楽団

かげきじょうかんげんがくだん

2005年、ベルギー王立歌劇場（モネ劇場）による
オペラ「ドン・ジョヴァンニ」で、多くの子どもたちにオペラの
楽しさを伝えてくれた、大野和士さん。

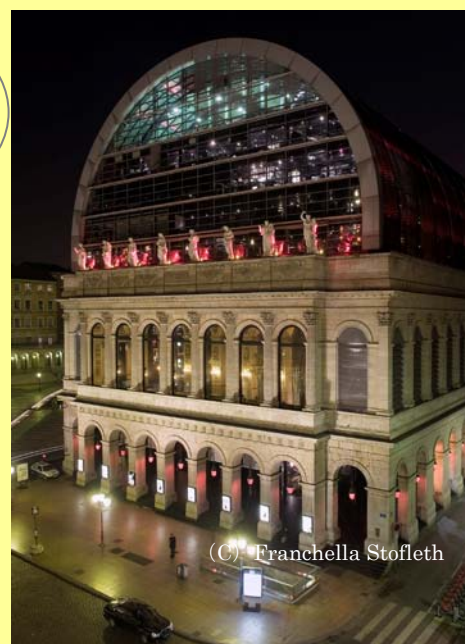
今度は、フランスが誇る国立リヨン歌劇場管弦楽団とともに、
オーケストラの壮大な音楽をお送りします。
グルメの街・リヨンから届くおいしい音楽を
一緒に楽しみましょう！

2009年11月2日（月）7：00PM開演

Bunkamuraオーチャードホール

～曲目～

- ♪ドビュッシー：「ぼくしん牧神の午後への前奏曲」
♪ストラヴィンスキー：バレエ組曲「火の鳥」
（1911年版）



(C) Franchella Stofleth

フランス国立リヨン歌劇場

「牧神の午後への前奏曲」 「火の鳥」

博士の曲目紹介



夢と魔法の世界をお届けする2曲！

——今回、大野和士 指揮／フランス国立リヨン歌劇場管弦楽団がお届けするのは、
ファンタジーの世界を色彩豊かに描写した2つの名曲です。——

「牧神の午後への前奏曲」 Prélude à "L'après-midi d'un faune"

ドビュッシー作曲《牧神の午後への前奏曲》は、音楽の世界でのフランス印象主義の始まりを告げる、その後の多くの作曲家達に影響をあたえた記念すべき作品だったのです。

「前奏曲」（お話が始まる前に演奏する曲という意味だよ）という題名も、印象的だと言えますね。ギリシャ神話の登場人物で、体の上半分が人間、下半分がヤギという「牧神」が午後眠りから覚めてからひとときの出来事、空想の世界、そしてまた眠りに落ちるまでを描いた詩につけられた音楽で、ドビュッシーは「この音楽は、マラルメ(作者)の美しい詩をきわめて自由に絵解きしたもの」と述べています。

その音楽がとってもきれいで、イメージしやすい音楽なので、後にバレエで振り付けされて上演されました。初めてこの曲を聴いた人達は、そのあまりの美しさと、まるで夢をみているような雰囲気にとっても驚きました。そしてこの曲はこのあとの多くの作曲家に影響を与えました。

曲は、印象的なフルートのソロではじまります。20秒ほどのフルートの美しいメロディーですが、《牧神の午後への前奏曲》はフルート奏者にとって、もっとも大切な曲のひとつなのです！



作曲者：ドビュッシー

「火の鳥」 L'Oiseau de Feu

ストラヴィンスキー作曲《火の鳥》はバレエのための音楽として、魔法の世界を描いたロシア民話をもとに作曲されました。王子イワンが、美しい火の鳥の助けを借りて、魔王カスチュイとその一味につかまっている騎士や王女さまたちを助け出すお話です。



作曲者：ストラヴィンスキー

若かったストラヴィンスキーは、この曲の大成功のおかげで一躍、世界的な作曲家として有名になりました。

「火の鳥」の優雅な（やさしく美しい）踊りや、魔王の乱暴な踊りなど、彼は、この曲のなかで、オーケストラを使って、目に見えるもの、色や明るさ（色彩）を音で表現する「絵画的性」というものを追求し、実現させました。この「火の鳥」で「目で見えるように、音を聴く」という楽しみ方が可能になったのです。

みんなは、この音楽を聴いて、どんな光景、どんな物語が目浮かぶかな？

出演者プロフィール

大野和士（指揮）Kazushi Ono

大野和士さんは東京藝術大学で指揮を勉強、卒業後は海外へ渡り、1987年イタリアで開催されたトスカニーニ国際指揮者コンクールで優勝、世界中の注目を集めました。1990年～1996年クロアチア、ザグレブ・フィルハーモニー管弦楽団の音楽監督を、1996年～2002年ドイツ、バーデン州立歌劇場音楽総監督を務め、海外で幅広く活躍しています。日本でも1992年～1999年東京フィルハーモニー交響楽団の常任指揮者を務めるほか、数多くのオーケストラやオペラを指揮するなど活躍し、渡邊暁雄音楽基金音楽賞、文化庁芸術祭大賞、出光音楽大賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、芸術選奨文部科学大臣賞、紫綬褒章など多数の賞を受賞しました。2002年～2008年6月までベルギー王立歌劇場（モネ劇場）の音楽監督を務め、2005年にはモネ劇場の日本ツアーが初めて実現しました。2008年9月からフランス国立リヨン歌劇場管弦楽団の首席指揮者に就任、リヨンでのオペラやオーケストラの公演に出演するほか、世界中のオーケストラや歌劇場、音楽祭からも招かれています。今、世界中で大きな注目を集める指揮者として大活躍する一方、教育プログラムへの関心も高く、2005年のモネ劇場来日の際には、「子どもたちに贈るオペラくドン・ジョヴァンニ」を開催（主催：Sony Music Foundation）、大野さん自身がオペラの場面を紹介、子どもたちは字幕なしのステージとオーケストラの生演奏、そして歌手の生の声に圧倒されながら、オペラを楽しんでいました。



(C)Franchella Stofleth

フランス国立リヨン歌劇場管弦楽団 L' Orchestre de l' opera de Lyon

1983年創設のリヨン歌劇場管弦楽団は2008年に25周年を迎えました。歴代の音楽監督を経て2008年9月に大野和士さんが首席指揮者に就任、すでに世界で活躍する大野さんの評判を知っているオーケストラメンバーからは、大きな期待を持って迎え入れられました。リヨン歌劇場管弦楽団は約60名の楽団員で構成されており、リヨン歌劇場でのオーケストラ、オペラ上演での演奏だけではなく、フランス国内外にも招かれ音楽祭や劇場での演奏会も数多く行っています。近年は歌劇場スタッフとともにアウトリーチ活動や教育プログラムにも積極的に参加、子どもたちに楽しく音楽体験してもらうためのプログラムを提案したり、会話やコミュニケーションのためのトレーニングを定期的に実施しています。



(C)Franchella Stofleth

大野さんからのメッセージ

今回、日本の子どもたちに、音楽を通じて伝えたいこと

まず、私自身の経験をお話します。私がオペラに出会ったのは小学5年生で「椿姫」を観に行きました。椿姫は悲しい物語ですが、悲しい気分になったわけでもなく、ただ目を見張っていた思い出しかありません。それでも最初に出てくるもの悲しい音楽のテーマが、途中にも出てきたことは覚えています。それと指揮者がステージに出てきて、スポットライトが当たって…。そういう雰囲気のにまれて上気していたことは記憶しています。それが私の初めての体験で、それからワクワク、ウキウキする体験というものをずっと求めて、今に至っています。初めてそういうことに会う、ということはとても大切なことだと思うのです。

しかも、音楽は言葉を介さなくとも誰でも理解できるものなのです。

今回、オーケストラのメンバーは言葉を使わずに、楽器と音で喜びや悲しみ、ウキウキした気持ちを伝えたりすることを考えています。音を通じて、国境を越えてやってきた初めての人と会話ができる、コミュニケーションが取れる、そんな体験ができたらと思っています。

2009年3月9日 リヨンにて・インタビュアー：Sony Music Foundation 川崎映子

教えて博士！！ フランスオーケストラの魅力

フランスの音楽についてよく言われるのは「洗練^{せんれん}」と「色彩^{しきさい}」。
洗練をわかりやすくいうと「おしゃれ」ってかんじかな。
これはそのままフランスのオーケストラにも言えることなんだ。



一人一人の個性^{こせい}や自由^{じゆう}が尊重^{そんちょう}されるから、それぞれがのびのびと最高の演奏が出来る、
しかもそれが合わさったときにもっと素敵なものになるんだ。
これはフランスの国民性（フランス人らしさ）なのかもしれないね。
けっして、田舎っぽくないんだ。なんだか優雅^{ゆうが}で、おしゃれ！

これがドイツにいくと、全然違うんだ。
ドイツでは、みんなで力を合わせて、助け合って、形をそろえて、ということが大事なんだ。
日本も似ているかもしれないね。



そして、なんといってもフランスは伝統^{でんとう}的に管楽器王国で、
神業^{かみわざ}のような名手（楽器の名人）が、昔も今も、たくさんいるんだ。
だからオーケストラも豊かな音の色彩が広がる。



それも軽やかで明るくて、美しい音がいくつも重なり合うように響きを作るよ。

弦楽器も、よ〜くみると・・・

弓を楽器に押し付けてゴシゴシ、グイグイこすったりせず、軽くあてて速い弓の動きをしているよ。
これも管楽器と同じように、軽やかに色の含んだ音を響かせるんだ。

実は、昔のフランスのオーケストラは、響きの流れや
メロディーばかり気にしすぎて、タイミングがそろわずに始まったり、
終わったりすることもあったんだよ。今は、ちゃんとタイミングもバッチリ！
でもやっぱり、音楽の流れ、洗練と色彩をたっぷり感じさせる
すばらしいオーケストラ音楽を聴かせてくれます。



《牧神の午後への前奏曲》も《火の鳥》も、
まさにフランスのオーケストラの魅力^{魅力}を100%生かす、
素晴らしいプログラムです。楽しみだね！

チケット情報

■料金（税込・指定）

小学生・中学生 S 席：2,500 円/A 席：1,500 円
高校生 S 席：3,000 円/A 席：2,000 円
小学生・中学生の同伴者（保護者）S 席：4,000 円/A 席：3,000 円

■プレイガイド

Sony Music Foundation 03-3261-9933（月～金/10:00-18:00）
Bunkamura チケットセンター 03-3477-9999
ぴあ <http://www.pia.co.jp/>（P コード：325-478）
e+（イープラス） <http://eplus.jp/>

■注意事項（必ずお読み下さい）

- ・この公演は小学生・中学生・高校生が対象となります。
- ・できるだけ多くのお子様にご入場いただくため、
大学生以上の一般の方のみの入場はお断りさせていただきます。
あらかじめご了承ください。
- ・小学生・中学生の同伴者（保護者）は、チケットの購入が可能です。
- ・同伴者（保護者）のご購入は、お一人につき上限4枚までとします。
- ・高校生の同伴者（保護者）はチケットの購入ができません。
- ・未就学のお子様のお断りさせていただきます。



探検！リヨンの街



こんにちは。ぼくはギニョール。リヨンで、ぼくたち人形は、ギニョールと呼ばれて親しまれているんだ。これから、ぼくが生まれた街リヨンを紹介するよ。
リyonはフランスで、パリの次に2番目に大きい街なんだ。何よりも自慢なのは、おいしいご飯！音楽もあふれる最高の街なんだ。
ぜひいつか皆にも来てほしいなあ〜。リyonへ来たら、街のあちこちでぼくに会えるよ！



**リヨンの街には、
れきしてきけんどうぶつ
歴史的建造物が**

いっぱい！！



フルヴィエールの丘



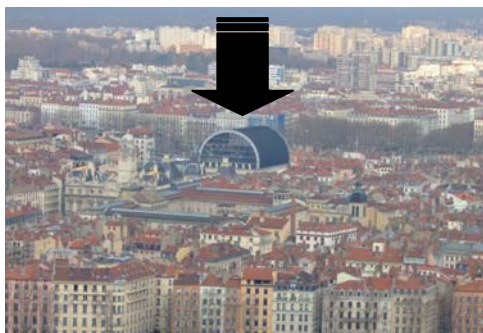
まずは街が見渡せるフルヴィエールの丘へ。到着すると…目の前にはとっても大きなノートルダム・ド・フルヴィエールバジリカ聖堂が現れました。リyon市内のどこからでも見ることができる教会です。

古代ローマ劇場



フルヴィエールの丘から街へおける途中にフランスで最も古いローマ劇場があるよ。リyonには古代ローマ時代の建物がたくさん残されていて、1998年「リyon歴史地区」として、世界遺産にも指定されました。

フルヴィエールの丘から発見！！ロールケーキ！？ いったいこの建物は何だろう？？？



実は・・・この建物こそが、リyon国立歌劇場。丸い屋根の部分は、ダンスのリハーサル室になっています。地上11階分の高さがある建物で、リyonの街がとってもきれいに見えるんだ。

ベルクール広場にて-リヨンで生まれた「星の王子様」-



「星の王子様」の作家でパイロットのアントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリは、リヨンで生まれました。旧市街のおみやげやさんをのぞくと「星の王子様」のイラストが描かれたTシャツや文房具などがたくさん売られています。

リヨンの市街の中心にある大きな広場、ベルクール広場には銅像があつたり（写真）、リヨンの空港名が「サン＝テグジュペリ国際空港」だったり、彼がリヨン市民にとっても親しまれていることがわかるね。

見てるだけで、おなかいっぱい？土日のマルシェ(市場)



土日になると、リヨンの街の道には、マルシェ（市場）がならんで、やさいやくだもの、チーズ、おはな、おにくを売っている車がぎっしりと並ぶんだ！その長さは数百メートル！！

マルシェは近くの農家などでとれたものを売りに来るので、新鮮なものがお店に並びます。

さすが、食文化の発信地「美食の都」と呼ばれているリヨン！

朝からたくさんの人たちが来るんだよ。おいしそ〜う！

おっと！われわれの説明を忘れてはいかんぞ！！



ぼくたちも、ギニョールって呼ばれているよ。

リヨンでは街のおみやげやさんに行くと、独特な顔のギニョールが描かれているものが売られていたり、お店のショーウィンドウには古いギニョールが飾られていたりするんだ。フランスの子供達にも大人気で、専門の劇場もあるよ。マリオネット（操り人形芝居）と言ったりもするよ。



←お菓子の入れ物に

書いてあるギニョールの絵♪

壁にもギニョールの絵が

描かれているよ♪⇒



よ〜く見ると？リヨンのもう一つの名物「だまし絵」

右の写真、よ〜く見ると、窓も人もみんな絵なんだ。

この建物には、リヨン出身の有名な人たちがたくさん描かれているんだって。

リヨンの街を歩いていると、こんな風に、壁にだまし絵が描かれている、

おもしろくてかわいい建物に出会うことができるんだよ！

でも、ぶつからないように気をつけなきゃ・・・



ベートーヴェン「交響曲第九番二短調作品125」“第九”

皆さんは、「第九」（だいく）という曲を知っていますか？

お家を立てる大工さんではありませんよ！

これは、大作曲家ベートーヴェンが、「9番目に作曲した交響曲^{こうきょうきょく}」のことです。

彼は生涯に9曲の交響曲を作曲し、「第九」はその最後の曲で、

ベートーヴェンの集大成の大作です。

例えば、同じ交響曲でも、第8番のことは、あくまでも「8番」と呼び、

「第八」とは言いません。「第九」は特別な曲なのです。

とにかく、規模が大きい、オーケストラの楽器の数も多く、

曲も長く、そして濃く作られた曲です。

曲が素晴らしい、大きい、たくさんの人数も必要、となると、

あたりまえのようにお祭りのイベントで、

“ぜひこの曲を演奏しましょう”と思うのは自然なことだね。

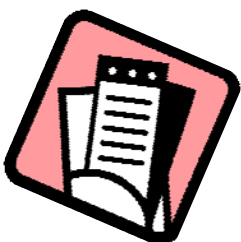
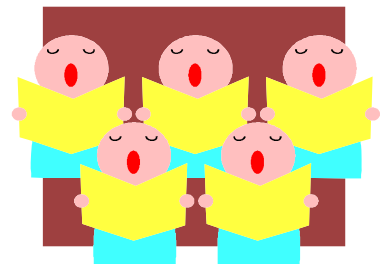


年末に第九が演奏される理由

日本では、なぜか年末になると、あちこちで「第九」が演奏されます。

一体どうしてでしょう…。

実はドイツが始まりなんです！第1次世界大戦^{だいいしじせかいたいせん}の終わったばかりのドイツで始まった、大晦日^{おおみそか}にこの曲を演奏するイベントは大きな反響^{はんきやう}を呼びました。平和^{へいわ}、自由^{じゆう}、平等^{びやうどう}を歌ったこの曲は、逆境^{ぎやうききやう}にある時（つらい時）にこそ、輝きました。そのあとも、大晦日だけでなく、記念^{きねん}や節目^{ふしめ}となる演奏会で演奏され続けてきました。



しかし、日本でこれほど数多く年末「第九」演奏会が開かれるようになったのは、日本だけの特別な事情^{じじきやう}がありました。まだ日本がそれほど豊か^{ゆたか}ではなかったころ、一年の終わりの演奏会に、お客様にたくさん来て頂いて、安心して新年を迎えることができるという目的^{もくてき}もあって、年末に集中的に「第九」を演奏する習慣^{しゅうかん}ができたのです。「第九」には大勢^{おおぜい}の合唱^{ごうた}が参加します。何十人、何百人もの人がオーケストラと一緒に歌います。そうすると、その合唱団で歌っている人の、家族や友人が、演奏会のチケットを買って聴きにきてくれますね。オーケストラにとって「第九」は、お客さんがたくさん来てくれる、特別な曲だったのです。

絵の顔はちょっと怖いけど…

ベートーヴェンってこんな人



ベートーヴェン（1770－1827）といえば、「楽聖*」とも呼ばれ、クラシック音楽、特にドイツのクラシック音楽を代表する作曲家として知られています。

このベートーヴェンの絵、もじゃもじゃ頭に真剣な鋭い目、ちょっとこわい人のように描かれていますね。ただ、若い頃はとってもおしゃれで、女の人にもモテた名ピアニストだったんですよ！

彼の人生に転機が訪れたのは20代の後半でした。

なんと音楽家にとっていのちともいえる聴覚を、病気によって失ってしまったのです。彼は絶望し、死のうとも思いました。

しかし、そこから希望を捨てずに立ち直り、作曲家として、音の聴こえない世界から、次々と名作を生み出していったのです。

そのころから、彼の音楽は「苦悩を克服して歓喜へ」（苦しさに打ち

勝ち、よここびへ）という共通のテーマが見られるようになりました。

9曲の交響曲や16曲の弦楽四重奏曲、32曲のピアノソナタなど全てが名作であり、彼の音楽のスタイルはその後のほとんどの作曲家に大きな影響を残し、彼のお葬式には3万人もの人が駆けつけたそうです。

*楽聖ってなに？…ベートーヴェンのように、素晴らしい音楽家のことをいうんだよ！



要チェック

“第九”の、ベートーヴェンの手書きの楽譜！！

よ〜く見ると、間違ったところを黒く塗りつぶしているのがわかるね。

ベートーヴェン“第九”直筆譜

Die Staatsbibliothek zu Berlin – Preußischer Kulturbesitz
(Berlin State Library – Prussian Cultural Heritage)より転載



第15刊 予告



もりお博士の音楽講座 Vol. 3

2010年はショパンの「生誕200年」。

“ピアノの詩人”と呼ばれたショパンの特集をお送り致します。

お楽しみに！！



必見！

博士に質問！博士の回答コーナー



質問1

指揮者は、指揮棒を使っている人と使っていない人がいるけれど、なぜですか？

三つの理由を考えてみました。

ひとつは、指揮者の好みです。指揮棒を使うと、拍子をより固く、明確に示すことができます。

指揮者がオーケストラにどのような態度で臨むのか、これで示されるんだ。

つまり指揮棒を使う方が、より「こうやって欲しい」ということがしっかり伝わるわけですね。

指揮棒がないと、指揮者の印象は柔らかくなり、オーケストラの中の自主性が尊重されます。

「あなたたちの自由な発想を聴かせて下さい」という立場ですね。

二つ目に、曲の雰囲気によります。激しく、速い曲をやる時は、指揮棒でパツ、パツと次の指示を見せてくれたほうがオーケストラは演奏しやすいですし、逆にゆっくりな曲では、指揮棒を置いて、優しくまとめるような指揮をして下さると、オーケストラも安心して優雅な音で演奏できるんです。

最後に、オーケストラの規模による違いです。オーケストラの人数が多い時は、少しでもはっきり見えるように指揮棒を使いますが、規模が小さい時は、指揮棒を使うと「大げさ」に見える時があり、そういうときは指揮棒を置いて指揮します。これら三つの理由が少しずつ影響していると思います。

質問2

博士が今までいったコンサートのなかで、一番よかったコンサートをおしえてください！！

博士もまだまだ経験は浅いですが、そうですね。いくつか超名演に出会いました。

ひとつは、亡くなった朝比奈隆先生指揮、東京交響楽団が演奏したブルックナーの交響曲第5番。

神々しくてあまりにも感動して、演奏会のあとしばらく立ち上がれませんでした。

これが高校生の時で、初めてブルックナーを聴いた瞬間。

次は、実は私が演奏にも参加していて、でも演奏しながら猛烈に感動したのが、やはり朝比奈隆先生の指揮された東京都交響楽団との同じくブルックナー交響曲第5番の演奏。

最後にはっきりと「神様！」と呼びかけたい気持ちになったのを覚えています。

（実はこのときの演奏、CD化されているんですよ！）

もうひとつ！プラハで聴いたマーツァル指揮、チェコフィルのドヴォルザーク交響曲第7番。

すごい迫力で、演奏と精神の完全な一体にトリップしたような演奏に呆然。お客さんも全員総立ちで拍手しました。他でも、しょっちゅう演奏会を聴いていれば、1年に1、2回、絶対忘れられない超名演奏に出会える計算になります。一度そういう目にあうと、もう病みつきます！

本場ヨーロッパからの素晴らしい演奏、そして日本人の指揮者、日本のオーケストラによる本場に負けない素晴らしい演奏、どちらもぜひ楽しんで頂きたいと思っています。

たくさんの質問を有難う！！

みんなもこれから、どんどん音楽を好きになって欲しいな！！

発行：財団法人ソニー音楽芸術振興会(Sony Music Foundation)

〒102-0076 東京都千代田区五番町5-1 JS 市ヶ谷ビル7F

TEL:03-3261-9933 FAX:03-3261-9898 Email: smf@sonymusic.co.jp URL: www.smf.or.jp

発行人：岡 路子／編集：川崎 映子・千田 真実・北川 森央